



埼玉県学力・学習状況調査報告書

検索



<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

平成30年度埼玉県学力・学習状況調査報告書

〔平成30年4月実施〕

～子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす～

前年度の学級に
並び替えて分析を！

児童生徒一人一人の
つまずきの解消を！

平成30年12月
埼玉県教育委員会



はじめに

本調査は、「学習したことがしっかりと身に付いているか」という従来の調査の視点に、「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」「児童生徒を変容させることができたか」という新たな視点を加えた全国初の調査であり、今年度、4回目の調査を実施しました。

毎年、小学校4年生から中学校3年生を対象に調査を実施することで、「学力の伸び」が継続して把握できる特徴を生かし、子供たちには、現在の実力を知り、「どれだけ伸びたか」を実感することで、自信を深めることを大切にしてほしいと考えています。

各学校においては、調査結果のデータを前年度の学級に並び替えて分析を行い、「学力等を伸ばした子供の割合」や「学力等の伸び率」が高い学年や学級を把握するとともに、担当者からの聞き取りや授業参観を行うことで、効果的な取組や工夫を明らかにし、そうした実践を共有していただきたいと考えています。

本報告書には、県全体の「学力の伸び」の状況や、指導上の課題を解決するための「分析・活用の方法」、「結果を活用して学力を伸ばした学校の取組」や「本調査の問題を活用した学習指導のポイント」等を分かりやすく掲載しております。

また、昨年度までの本調査における研究分析結果から「主体的・対話的で深い学び（特に問題解決的な学び）による授業改善」や「学級経営の充実」が、子供たちの非認知能力（自制心や自己効力感、勤勉性等）の向上や、学習方略（学習方法や態度）の改善を通じて、学力を向上させる可能性が示唆されました。「学習方略」や「非認知能力」の詳細や、分析・活用の方法についても記載しておりますので御活用ください。

これらのデータや記載内容は、調査の対象学年や該当教科はもちろんのこと、すべての学年や教科の指導や校内研修の資料など多面的に活用できるものです。本調査の調査結果の分析から課題を把握し、その解決に向けた仮説の設定、仮説に基づく取組の実施、検証といった指導改善のPDCAサイクルを確立し、一人一人の児童生徒の学力を伸ばすための指導改善を進めていただきますようお願いいたします。

平成30年12月

埼玉県教育局市町村支援部参事兼義務教育指導課長
石井 宏明

目次

はじめに

平成30年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

第1章 調査の概要

1 調査の概要	8
2 学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計	10
3 個人結果票について	14
4 調査に関するQ&A	18

第2章 調査結果の概要

1 「学力の伸び」の状況	24
2 <参考>「平成29年度埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業」の分析結果について	28

第3章 調査結果の活用

調査結果の分析・活用について	34
県学力・学習状況調査を活用した実践事例	44

第4章 特徴的な学校の取組の紹介

1 戸田市立新曾北小学校	48
2 川越市立芳野小学校	50
3 熊谷市立熊谷西小学校	52
4 幸手市立幸手小学校	54
5 桶川市立加納中学校	56
6 富士見市立本郷中学校	58
7 深谷市立花園中学校	60
8 越谷市立南中学校	62

第5章 学習指導のポイント

1 国語	68
2 算数・数学	82
3 英語	98

<参考> 質問紙調査から見られる相関関係

1 「教員との関係」と「自分に対する考え」との相関	104
2 「学級の雰囲気」と「学習の様子」に関する相関	106
3 「学習意欲」と「教科に関する調査」に関する相関	108
4 「家庭での生活習慣」に関する相関	110
5 「家庭での様子」と「自己肯定感」に関する相関	112



平成30年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン



調査の目的

本県の児童生徒が学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

背景 1

学力向上の必要性

背景 2

これまでの調査の課題

指導改善の方向

第2章 調査結果の概要

(P24~31)

第5章 学習指導のポイント

(P68~101)

学力調査の結果概要

6年間を通じた各教科におけるよさや課題

各学校における

- ・校内研修
- ・学力向上の取組

- 調査の実施**
- 調査日 平成30年4月12日(木)
 - 調査対象 小学校第4学年~中学校第3学年
 - 調査内容 小学校第4学年~第6学年:国語、算数、質問紙
中学校第1学年:国語、数学、質問紙
中学校第2・3学年:国語、数学、英語、質問紙
市町村教育委員会、各小・中学校:質問紙

質問紙調査の結果概要

6年間を通じて見えてきた子供たちの意欲や態度の変容

全ての学年・教科へ

活用の方向

第3章 調査結果の活用

(P34~45)

第6章 質問紙調査の分析

(P104~113)

新たに見えてくる児童生徒の姿

- 学力と学習方略の関係
- 学力と非認知能力の関係など

新たな授業改善の視点

- 主体的・対話的で深い学びの状況
- 効果的な取組の共有

学力

学力の伸び

調査結果の詳細な分析

県教育委員会、各市町村、各小・中学校

意欲・態度

学習方略

非認知能力

調査結果を活用し「さらに伸ばす」「課題を克服」
第4章 特徴的な学校の取組の紹介 (P48~63)

一人一人の学力を確実に伸ばす教育の推進

埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業

学級経営

主体的・対話的で深い学び

学習方法や態度(学習方略)

学力(認知能力)

自己肯定感、勤勉性等(非認知能力)

主体的・対話的で深い学びの実施や学級経営が子供たちの学習方法・態度(学習方略)の改善や、自己肯定感や勤勉性等の向上を通じて学力向上させている。

各家庭との連携

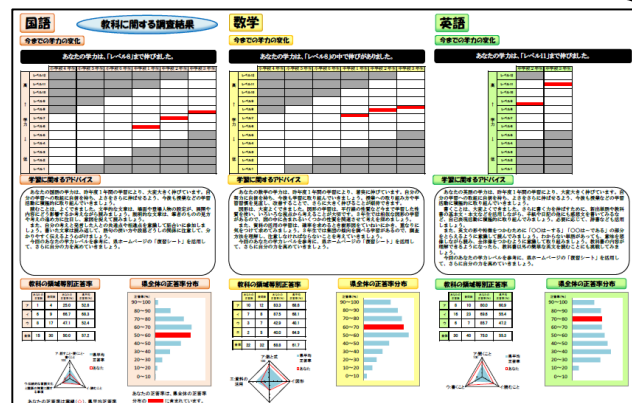
- 調査結果のアドバイス
- 家庭学習の支援
- 面談、学級懇談会、学校便り等における活用

委嘱校の実践事例を県内に普及

- 「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業
- 「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業

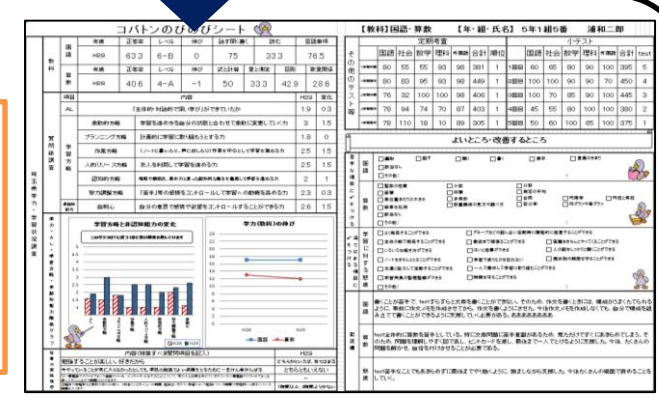
個人結果票

- 児童生徒一人一人に対して
- ・教科に関する調査の結果
- ・質問紙調査の結果
- ・学習に関するアドバイス



コバトンのびのびシート

- 児童生徒を多面的に把握
- ・アクティブ・ラーニング
- ・学習方略
- ・非認知能力と「学力の伸び」の相関



第1章

調査の概要

本調査の目的や調査の設計、県としての「学力」や「学力の伸び」の考え方についてのイメージを示しました。

また、学校へ送付した個人結果票のイメージや活用方法、調査に関するQ & Aも掲載しています。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

(2) 調査の対象

○県内の全公立小・中学校（さいたま市を除く）の児童生徒

・小学校 706校（150, 260人）

・中学校 356校（141, 163人）

○県内の全公立小・中学校及び市町村教育委員会（さいたま市を除く）

対象学年	教科	調査実施日
小学校第4学年	国語 算数	平成30年4月12日（木）
小学校第5学年	国語 算数	
小学校第6学年	国語 算数	
中学校第1学年	国語 数学	
中学校第2学年	国語 数学 英語	
中学校第3学年	国語 数学 英語	

(3) 調査の内容

各教科について、下記の調査範囲に基づいて作成したペーパーテストにより実施する。また、学習に対する意識や生活の様子に関する質問紙調査を併せて実施する。

ア 教科に関する調査

(ア) 対象学年

小学校第4学年～中学校第3学年

(イ) 対象教科

小学校第4学年～小学校第6学年 … 2教科（国語、算数）

中学校第1学年 … 2教科（国語、数学）

中学校第2、3学年 … 3教科（国語、数学、英語）

(ウ) 出題範囲

「小（中）学校学習指導要領（平成20年告示）」に示された内容で、各学年とも前学年までの学習内容を範囲とする。

(エ) 調査事項

基礎的・基本的な知識・技能をみる問題（知識に関する問題）及び基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をみる問題（活用に関する問題）

イ 児童生徒に対する質問紙調査

(ア) 対象学年

小学校第4学年～中学校第3学年

(イ) 調査事項

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

ウ 学校及び市町村教育委員会に対する質問紙調査

(ア) 対象

埼玉県内の公立小・中学校

埼玉県内の市町村教育委員会

(イ) 調査事項

学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項

(4) 調査に要する時間

小学校第4学年～小学校第6学年

- ・教科に関する調査の調査時間は1教科40分間とする。
- ・質問紙調査の調査時間は40分程度とする。

中学校第1学年～中学校第3学年

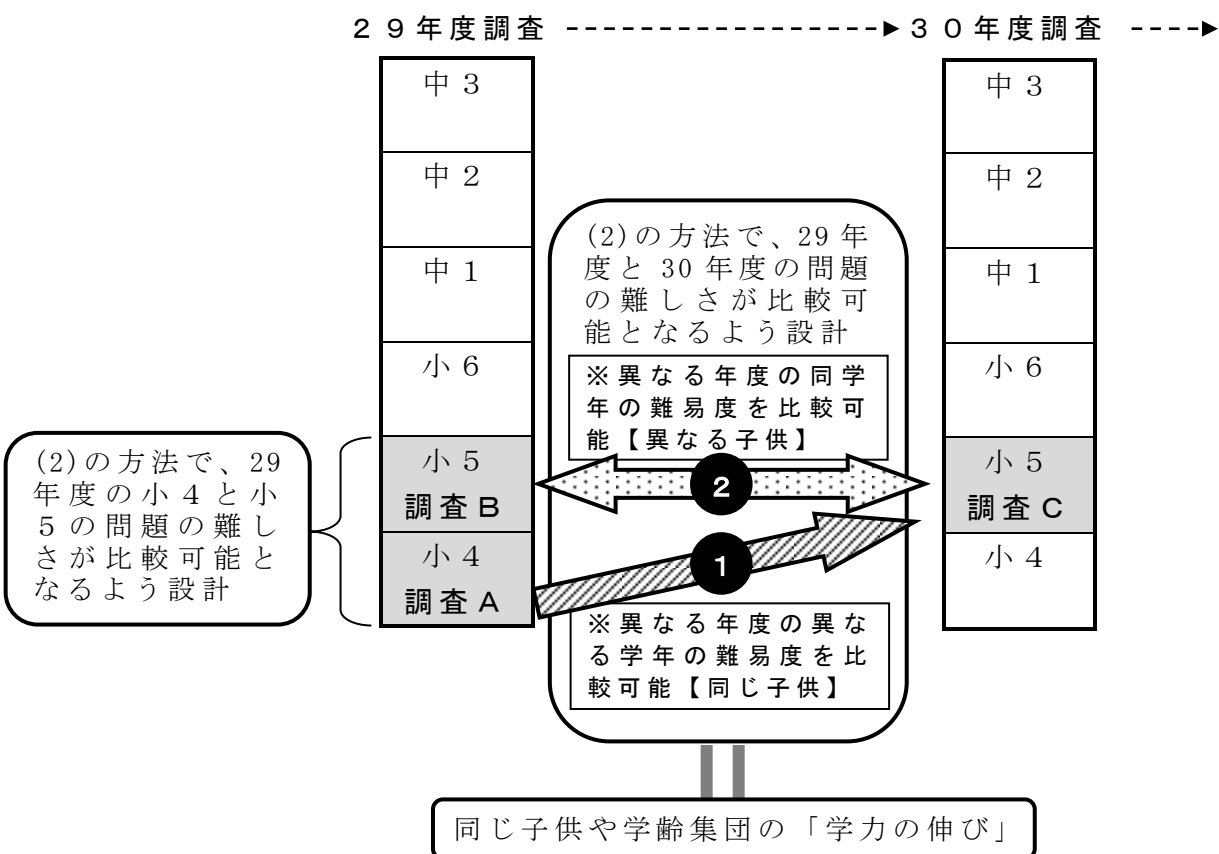
- ・教科に関する調査の調査時間は1教科45分間とする。
- ・質問紙調査の調査時間は40分程度とする。



(3) 埼玉県学力・学習状況調査の設計

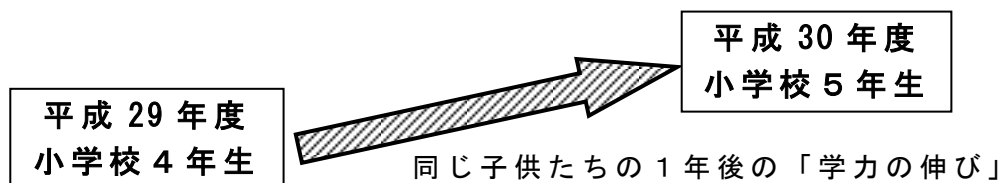
(1)、(2)にもとづき、本調査では、以下のような調査設計により問題の難しさを比較可能にして、それに応じて学力の経年変化(伸び)を見ることとしている。

調査の設計【イメージ】



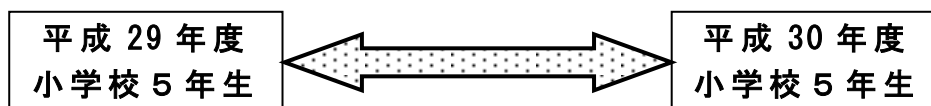
1 【同じ子供たちの「学力の伸び」】

- ・ 学年が上がった子供たちの結果を比較可能
(例) 平成29年度の小4と平成30年度の小5



2 【異なる年度の同じ学年の子供たちの結果】

- (例) 平成29年度の小5と平成30年度の小5



(4) 本調査における「学力の伸び」の捉え方

ア 「難易度」について

本調査では、学力を「どのくらい難しい問題に正答できるか」で捉えるために、全ての問題に難易度を設定しています。

< 難易度の例 >

○ 例 1 計算問題 (割り算)

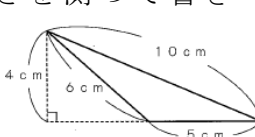
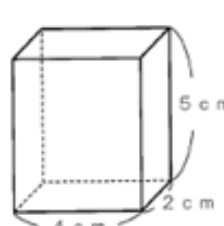
問題の難易度	問題例
6	$0.7 \div \frac{2}{3}$
4	$5.6 \div 1.4$
3	$52 \div 4$

割り算に分数も入るため、難易度がさらに上がって、「6」となる。

割り算に小数が入るため、難易度が「4」に上がる。

整数同士の割り算である。本調査では難易度を「3」と設定している。

○ 例 2 求積の問題

問題の難易度	問題例
6	次の図は、三角形の面積を求めるために、直線の長さを測って書き入れたものです。この三角形の面積を求めましょう。 
4	次の図のような、たて、横、高さがそれぞれ 2 cm、4 cm、5 cm の直方体の体積を求めましょう。 

与えられた数値から面積を求める問題である。必要な数値を取捨選択する必要があるため、難易度が「6」に上がる。

与えられた数値全てを使って体積を求める問題である。本調査では、難易度を「4」と設定している。

イ 「学力のレベル」について

様々な難易度の問題を出題し、それに対する正答や誤答の状況を見ることで、学力を判断しています。

学力は、「学力のレベル」で表されます。学力のレベルはレベル 1 からレベル 12 までありますが、各学年の測定は以下の表のように 7 レベルの間で行っています。

学年	学力のレベル	学年	学力のレベル
小学校 4 年生	レベル 1 ~ 7	中学校 1 年生	レベル 4 ~ 10
小学校 5 年生	レベル 2 ~ 8	中学校 2 年生	レベル 5 ~ 11
小学校 6 年生	レベル 3 ~ 9	中学校 3 年生	レベル 6 ~ 12

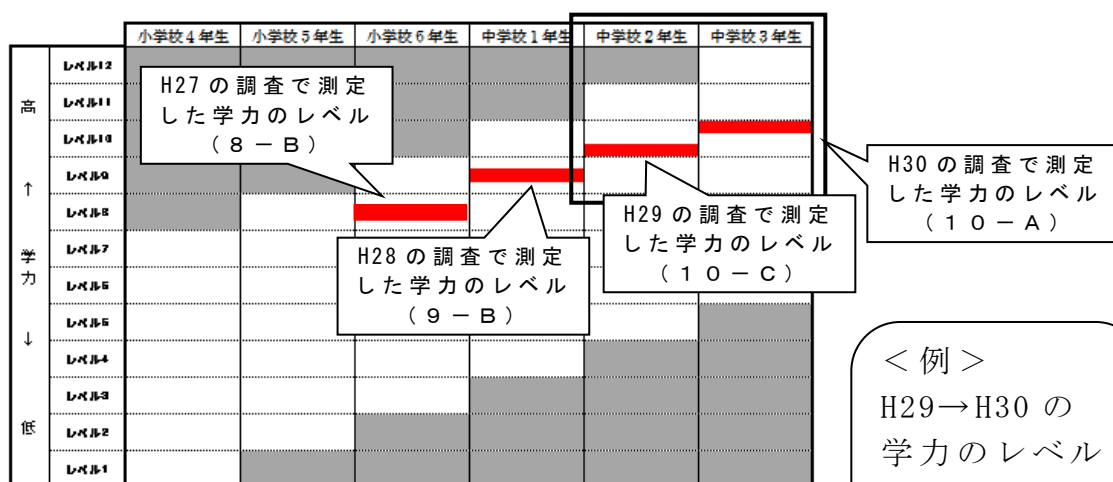
また、それぞれのレベルは、さらに細かく3層（高い順にA→B→C）に分かれており、同じレベルの中でもスモールステップで「学力の伸び」が分かるようになっています。児童生徒には、学力のレベルはこの小さな層で分けた1-Cから12-Aまでの36段階で提示されます。

ウ 「学力の伸び」について

本調査では、年度間の学力のレベルの差を「学力の伸び」と捉えています。下図は、個人結果票の一部を拡大したものです。児童生徒には、学力のレベルがバーの位置で示されます。前年度のバーの位置と、今年度のバーの位置を比べると「学力の伸び」が分かります。

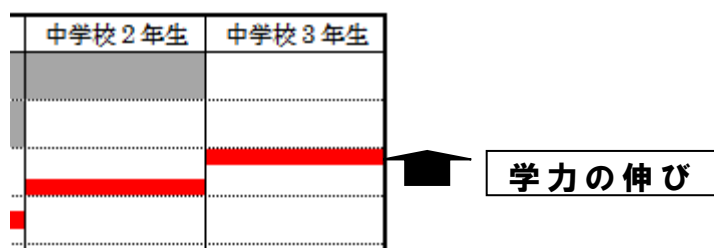
「学力の伸び」は学力のレベルを36段階に分けた中でのレベルの差で図っています。

< 学力のレベルの示し方の例（個人結果票の一部） >



< 例 >
 H29→H30の学力のレベルの伸びは、10-Cから10-Aで2となる。

< 個人結果票・□部分を拡大したもの >



3 個人結果票について

平成30年度埼玉県学力・学習状況調査

事務連絡（7月3日付け）再掲

担任用

個人結果票の活用について



県教育委員会では、県内公立小・中学校の小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒一人一人の学力の経年変化（学力の伸び）を把握するために、平成27年度から県学力・学習状況調査を行っています。

「個人結果票」は、児童生徒一人一人の調査結果を、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。

児童生徒には、学力の伸びを実感し自信を深めることで、学習意欲がさらに高まるよう、個人結果票の返却時にお声がけください。

保護者の方には、児童生徒の伸びやつまずきを具体的に伝え、家庭学習が充実するようお伝えください。

先生方におかれましては、児童生徒一人一人のつまずきを早期に発見し、その解消を図ることができるよう御活用ください。

1 結果票の返却について

返却前

- 個人結果票に、各学校で保管している個人番号シール票をもとに、組、出席番号、名前を記入する。

※ この作業を間違えると、児童生徒に誤った結果が返却されることとなります。間違いがないか十分に確認してください。

児童生徒には

- 本調査の特徴を伝えます。
 - ・ 1年間の「学力の伸び」が分かる調査であること（小5から）
 - ・ 現在の学力のレベルが分かる調査であること
 - ・ レベルが上がるほど難しい問題を解く力があるということ
- 一人一人の1年間のがんばりや伸びを認めたり、ほめたりするなどの言葉がけをします。
- 夏休み以降の学習計画のアドバイスをします。

返却時

保護者には

- 可能な限り時間をかけて、お子さんのよさや課題を伝えます。
- 伸びたところをほめるとともに、苦手領域を中心に家庭学習を行うよう伝えます。
- 家庭学習には、県のホームページから本調査の「復習シート」をダウンロードして活用できることを伝えます。

埼玉県学力・学習状況調査 復習シート

検索

※ 御家庭への返却につきましては、各学校の実情に応じて、7月中旬以降9月中を目途にお願いします。この結果を今後の学習に生かせるよう、できる限り早く返却いただけるよう御協力をお願いします。

2 個人結果票の見方について

P 4

質問紙調査の結果 ～理解ある態度の達成目標～

「理解ある態度」を身に付けることで……

「理解ある態度」を身に付けることで……

達成目標ごとの達成状況

ご家庭へのメッセージ

自由記述欄

P 1

平成30年度 埼玉県学力・学習状況調査 個人結果票【中学校3年生】

埼玉県学力・学習状況調査の結果について

教科に関する調査結果(2-3ページの見方)

それぞれの学力レベルが定義できる問題の例

学習に関するアドバイス

(1) 学力のレベルなどの見方について

(2) それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例

(3) 今までの学力の変化について

(6) 質問紙調査の結果

(7) 自由記述欄について

(4) 学習のアドバイスについて

(5) 教科の領域等別正答率など

P 2

教科に関する調査結果

国語

数学

英語

教科の領域等別正答率

P 3

学習に関する調査結果

学習に関するアドバイス

教科の領域等別正答率

※本結果票は、【中学校2・3年生用】です。
 【小学校4～6年生用】【中学校1年生用】は国語と算数・数学の2教科になります。

(1) 学力のレベルなどの見方について【個人結果票P 1参照】

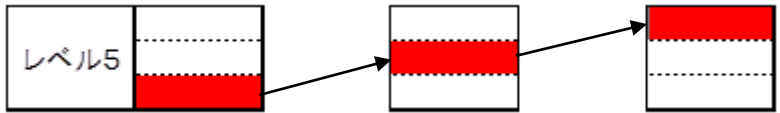
学力のレベルはバーの位置で表しています。学力のレベル標記は、1～12段階ありますが、測定は各学年7レベルの間で行います。各学年の測定範囲は、各学年を縦に見た白い部分です。

学年	学力のレベル
小学校4年生	レベル1～レベル7
小学校5年生	レベル2～レベル8
小学校6年生	レベル3～レベル9

学年	学力のレベル
中学校1年生	レベル4～レベル10
中学校2年生	レベル5～レベル11
中学校3年生	レベル6～レベル12

1つのレベルは、それぞれ3層に分かれており、同じレベルの中でも、スモールステップで学力の伸びがわかります。

例えば、同じレベル5の中でも、学力のレベルが高くなるとバーの位置が変わります。



※前学年でのバーの位置と、今回のバーの位置を比べると、学力の変化が分かります。

(2) それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例【個人結果票P 1参照】

調査は4月実施のため、各教科とも調査問題の出題範囲は前学年の内容となります。レベルごとに分けられた問題の例は、実際の調査問題のうち、当該レベルの児童生徒が70%程度の確率で正答できる問題を示しています。参考にしてください。

(3) 今までの学力の変化 について【個人結果票P 2, 3参照】

「児童生徒の学力の変化」について、次のような形でコメントを記載しています。

あなたの学力は、「レベル11」まで伸びました。

コメントは、次の①～⑧のパターンがあります。

	児童生徒の学力の変化の状況	表示されるコメント
①	・学力が伸びて、レベルが上がった場合	あなたの学力は、「レベル〇」まで伸びました。
②	・同じレベル内で、伸びがあった場合	あなたの学力は、「レベル〇」の中で伸びがありました。
③	・学力の位置が前年度と同じだった場合 ・学力の位置が前年度より下がった場合 (スモールステップでレベルが1つ下がった場合を含む)	あなたは、「レベル〇」の学力があります。 (〇はH30の児童生徒の学力レベルの数字)
④	・2つ以上レベルが下がった場合 ・正答数が0問であった場合 (学力のレベルの は表示されません)	学校の先生等と、学習などについて相談をしてみましょう。
⑤	・全ての調査問題に正答した場合	あなたの学力は、レベル〇以上になりました。 (〇は当該学年での最高レベルの数字)
⑥	・本年度の調査は実施したが、昨年度の調査を未実施の場合	あなたは、「レベル〇」の学力があります。 (〇はH30の児童生徒の学力レベルの数字)
⑦	・本年度調査の一部教科を未実施の場合 (昨年度実施・未実施の場合とも)	未実施教科：本年度の調査を受けていないため、今回の学力のレベルは表示できません。 (実施教科については①～⑥の状況に応じたコメントが表示されます。)
⑧	・本年度の調査を全教科未実施の場合 (個人結果票の返却はありません)	—

※個人結果票を返却する際にお願したいこと

【①②⑤の場合】(「学力の伸び」が見られた場合)

- ・本調査のねらいを実現できるよう、学力の伸びた教科について、**児童生徒一人一人の1年間のがんばりを認めたり、ほめたりする**ことで、児童生徒が自分をさらに伸ばし、自分のよさを生かしていけるような言葉かけをしてください。
- ・その際、「教科の領域等別正答率」や「県全体の正答率分布」なども参考にしながら、よさを具体的にほめるよう心がけてください。

【③④の場合】(学力の位置が前年度と同じ、または前年度より下がった場合)

- ・伸びている他の教科や、「教科の領域等別正答率」「県全体の正答率分布」を参考に、よい部分をほめることを中心に言葉かけをしてください。
- ・学力が前年度と同じか下がっている児童生徒については、「授業への取組」「学習習慣」「生活習慣」などにつまずきや悩みがある可能性があります。
- ・個々の学習方法や生活上の悩みの聞き取り、**教育相談などを行うことで**、児童生徒の状況を把握し、助言し、その後の取組等を見届けるなど十分な支援をしてください。

【⑥の場合】(昨年度未実施の場合)

- ・「教科の領域等別正答率」「県全体の正答率分布」を参考に、よい部分をほめることを中心に言葉かけをしてください。

【⑦の場合】(今年度一部未実施の場合) 実施した教科については、①～⑥に準じてください。

【⑧の場合】(今年度全教科未実施の場合)

- ・調査結果票はありませんが、日常の授業等ががんばっているところ等、ほめることを中心に言葉かけをしてください。

(4) **学習に関するアドバイス** について【個人結果票P 2, 3参照】

アドバイスは3段構成になっています。

例)「同じレベル内で、伸びがあった場合」のコメント

あなたの数学の学力は、昨年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

図形は、大変よくできました。図形の学習は、平行線の性質など今まで学習した性質を使い、いろいろな視点から考えることが大切です。3年生では相似な図形の学習があるので、図の中に含まれるいくつかの性質を関連させて考えを深めましょう。

また、関数の学習は、式から交点を求めたり、式をグラフに表したりする問題ができるようになることが大切です。3年生では放物線の学習があるので、分かっていることを、式・表・グラフと関連させ、ていねいに取り組みましょう。

今回のあなたの学力レベルを参考に、県ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めていきましょう。

学力調査の結果
・学習習慣 等

今後の学習への
アドバイス
(領域等別)

復習シートの活用

- ・ 上段では、児童生徒の学力の状況について説明し、「学力の伸び」を認めるコメント、授業や学習習慣などへのアドバイスを記載しています。
- ・ 中段では、領域等別に、今後どのような学習がさらに効果的であるかを記載しています。
- ・ 下段では、復習シートの活用を促しています。

「**学力レベルが前年度と同じだった場合**」「**学力レベルが前年度より下がった場合**」については、「必要に応じて、学校の先生やご家族の方と相談してみるのもよいでしょう。」などのコメントを記載しています。児童生徒の現状や要望に応じて**面談などを行い**、つまずきや課題を共有しつつ、よいところを認め、子供たちが自分をさらに伸ばし、自分のよさを生かしていけるよう働きかけましょう。

(5) **教科の領域等別正答率** 及び **県全体の正答率分布** について

【個人結果票P 2, 3参照】

- ・ 「教科の領域等別正答率」には、領域ごとの正答数、設問数、正答率を県全体の平均も併せて記載しています。レーダーチャートの実線(—)は児童生徒の正答率、網掛け(■)になっている部分は、県全体の平均正答率となっています。学力の変化の状況以外に、児童生徒のよさを認める際の参考としてください。
- ・ 「県全体の正答率分布」は、人数を横軸とした県全体の分布を棒グラフで示しています。当該の児童生徒が含まれる集団を表す棒グラフの色を ■ として、県全体におけるおおよその位置が分かるようになっています。ただし、**本調査の目的は、児童生徒一人一人の「学力の伸び」や変化を把握してよさを伸ばしていくことにあります**ので、県全体の中での位置に重きを置いた働きかけや指導は控え、あくまで**参考として御活用ください**。

(6) 「質問紙調査の結果～規律ある態度の達成目標～」について【個人結果票P 4参照】

- ・ 規律ある態度の達成目標について、児童生徒の回答状況を示しています。

(7) 自由記述欄の活用について(例)【個人結果票P 4参照】

- ・ 夏季休業中の学習計画や取組などについて児童生徒が記入し、夏季休業明けに提出させる。
- ・ 保護者にがんばりを認めたり、励ましたりするコメントを記入してもらう。
- ・ 返却に十分な時間が取れない場合に、担任があらかじめがんばりなどを認めるコメントを記載しておく。

4 調査に関するQ & A

(1) 調査について

【Q1】

従来の調査と県学力・学習状況調査とは何が違うのですか。

【A1】

従来の調査は、学力を正答率で表すことが多く、調査年度の子供の学力の現状を把握することには適していますが、実施年度が異なる調査の結果を比較しにくいという課題があります。

そこで、県学力・学習状況調査では、問題の難易度を考慮に入れて学力を測定する、つまり、「どれくらい難しい問題に正答できたか」という視点を加え、小学校4年生から、中学3年生まで、子供たちの学力が伸びていく様子をより明確に示すことができるようになっていきます。

(2) 個人結果票の見方について

【Q2】

同じ正答率の場合、同じ学力レベルになるのですか。

【A2】

同じ学力レベルにならない場合もあります。

県学力・学習状況調査の問題は、正答率が高いか低いかではなく、どの程度難しい問題に正答できたかでレベルが決まります。

例えば、AとBの子供が同じ10問を解答した場合に、Aが一番簡単な問題を1問間違えて、残りは全て正答し、Bが一番難しい問題を1問間違えたとします。この場合、正答率で考えると、AとBの学力はいずれも90%で同じということになりますが、本調査においては、より難しい問題に正答できているAの学力レベルの方が高くなります。

【Q3】

学力レベル7で考えた場合、小学校4年生の学力レベル7の児童と、中学1年生の学力レベル7の生徒の学力は、同じと考えてよいのでしょうか。

【A3】

県学力・学習状況調査の「学力のレベル」については、学力レベルが上がるほど難しい問題を解く力があると考えています。小学校4年生のレベル7と中学校1年生のレベル7では、正答できる問題の難易度は同じです。

ただし、小学校4年生の学力レベル7の児童が中1のレベル7の問題を解けるかというと、解けない可能性が高いです。これは、学習指導要領により学習内容が定められているため、中学校1年生のレベル7の問題を小4の児童はまだ習っていないためです。

【Q4】

学年の中で、レベルの数値が1上がると、該当学年内でのレベル数値は低くても「大きな伸びが見られた」とコメントされていますが、なぜですか。

【A4】

本調査では、どの学力レベルの中でも、数値が伸びているのであれば、子供一人一人に伸びを実感させ、自信を持たせることが重要と考えています。

そのため、昨年度の自分と比較して1レベル難易度の高い問題を解けるようになったことを「大きな伸び」と捉えてコメントしています。

【Q5】

中学2年生での学力レベルが5（中学2年生の中では一番低い学力レベル）の場合、学力レベル5より下の学力レベルにはつけられない状態になっています。この場合の学力レベルは、どのような基準でつけているのですか。

【A5】

中学2年生の調査における学力の測定できる問題の範囲はレベル5からレベル11と設定しています。レベル5の問題に1問でも正答していれば、レベル5の学力がある可能性があるため、レベル5に位置付けられるようになっています。この場合、レベル5を明らかに下回るのは、正答数が0問の場合であり、その場合は、レベル自体も表示されないこととしています。

(3) 個人結果票の返却について

【Q6】

個人結果票を児童生徒に返却する際、どんなことを伝えればよいですか。

【A6】

本調査は、過去の自分の学力と現在の学力を比較できる設計となっています。

学力の変化の状況により、教員や保護者から、一人一人の子供に適切な働きかけを行うことにより、今後の学力向上につなげていただきたいと考えています。学力が伸びた子供に対しては、1年間の頑張りを認めたり、褒めたりすることで、自信を持たせてください。

また、学力が伸びていない子供に対しては、教員と教育相談などを行うことで、つまずきや悩み等を共有し、子供の取組について丁寧な見取りなどを行うことで、今後の学力向上につなげてください。

子供の解答状況については、「教科の領域別正答率」の数値やレーダーチャートを参考にしてください。具体の問題については、本調査の設計上非公表となっていますが、県ホームページ上に「問題概要」や「復習シート」（類似問題）を掲載しているので、それらも活用してください。

返却する際、児童生徒一緒に保護者もいる場合には、可能な限り時間をかけていただき、個人結果票の返却に併せ、「学力の伸び」や児童生徒のよさや課題を丁寧に伝えてください。そのうえで、伸びたところをほめたり、認めたりするとともに、苦手領域を中心に家庭学習を充実するよう伝えるようにしてください。

(4) 結果帳票について

【Q7】

帳票の「26_学力の伸びの状況」の見方についてです。線の傾きは何を表していますか。

【A7】

この帳票では、同学年の集団の中で、特定の位置にいる児童生徒（75%値に位置する児童生徒、中央値に位置する児童生徒、25%値に位置する児童生徒）の前年度と今年度の学力を示しています。

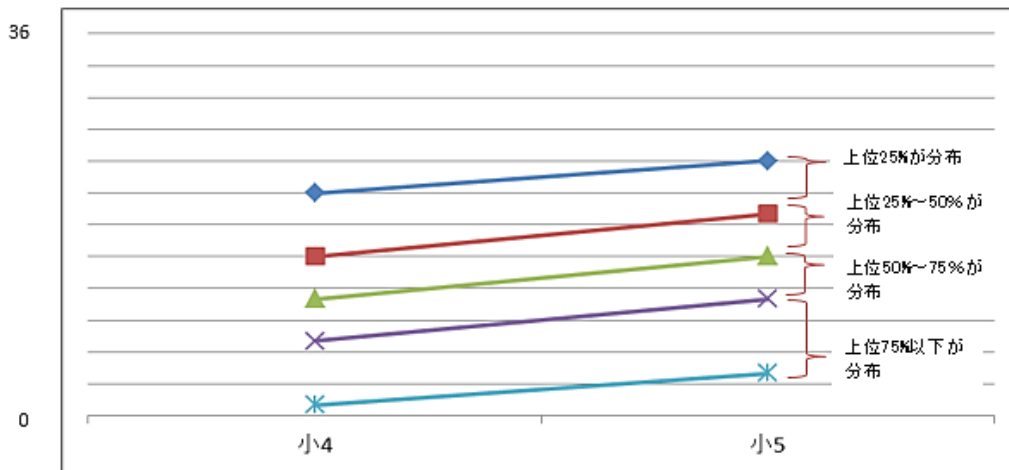
前年度のそれぞれの位置を、今年度と比べることによって、この集団の学力分布の変化が分かります。

【グラフの見方】

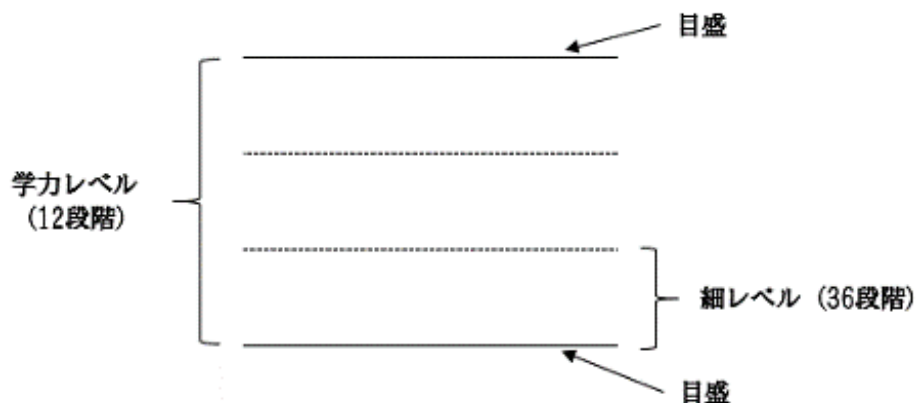
グラフの縦軸は、学力レベルを表しています。

目盛りは、個人結果票の学力レベル（12段階）を表しています。

目盛りと目盛りの間は、それぞれ3段階に分かれています。



- ◆ ⇒ 最大値 (最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ※ ⇒ 最小値 (最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)



第2章

調査結果の概要

平成27年度から30年度の4年間の「教科に関する調査」の結果から、県全体の「学力の伸び」の状況を掲載しました。

また、それらについての分析や、今後の対応策等についても、併せて記載しています。

※ 参考資料として、昨年度の本調査データ活用事業の分析結果も掲載しています。

活用方法

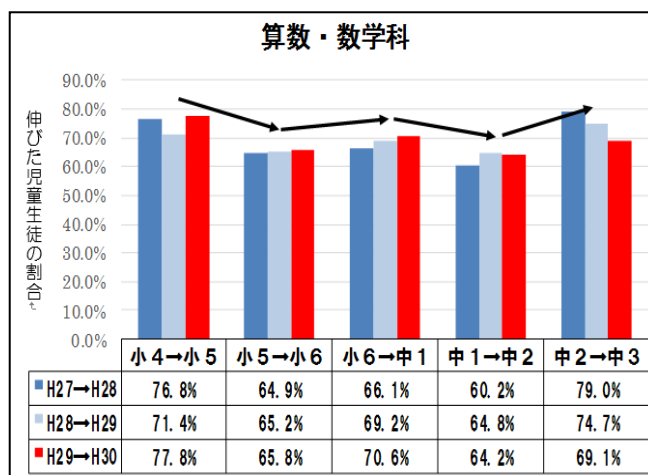
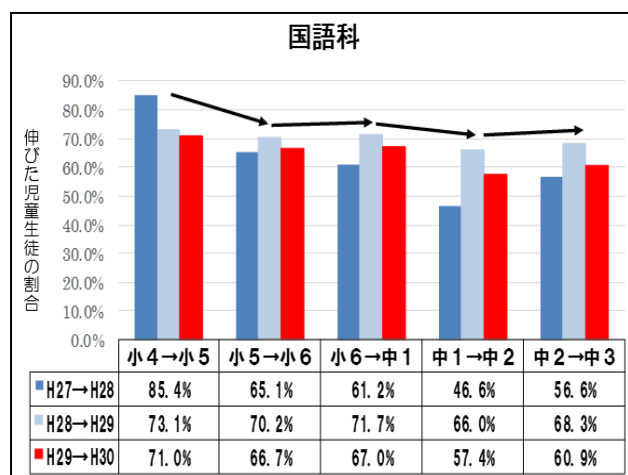
校内研修の資料や、調査結果を分析する際の参考として御活用いただけます。

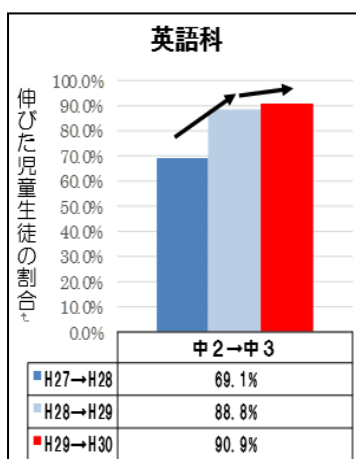
「学力の伸び」の状況（平成27～30年度）

埼玉県学力・学習状況調査の実施も、今回で4回目となり、3度目の「学力の伸び」の状況が分かりました。これらの結果の傾向と対応策をお伝えします。

傾向

- 「学力の伸びた児童生徒の割合」が最も多いのは、小学校4年生から5年生にかけてであり、**最も少ないのは中学校1年生から2年生にかけて**である。教科担当制に変わるなどの学習環境の変化、新しい教員や友人との関わりなどの生活環境の変化等により、学習面での伸び悩み（中1ギャップ）が起きていることが考えられる。
- **小学校5年生から6年生にかけて、「学力の伸びた児童生徒の割合」が減少**することがわかった。例えば国語科において、複数の資料を読み取って記述するなど、より多面的な思考が求められることや、算数科において、割合の学習など、学習内容の抽象度が上がることなど、学習内容が難しくなることが原因であると考えられる。
- **中学校2年生から3年生にかけて「学力の伸びた生徒の割合」が増加**する。中学校の学習環境・生活環境に慣れてくることや、高校入試を意識して家庭での学習などに一層力を入れたりすることが考えられる。





※数値の見方

上記のグラフ及びデータは、昨年度から「学力の伸び」が見られた児童生徒数の受検者数全体に対する割合です。教科ごとに「学力の伸び」が見られた（各学校に送付した帳票01「教科に関する調査 採点結果」にある「昨年度からの学力の伸び」の値が1以上であった）児童生徒数を、受検者数で割った値です。

いわゆる「伸び率」（全ての児童または生徒の「学力の伸び」の値を足し合わせて、受検者数で割った値）ではないことに注意してください。

対応策

【よい取組の共有】

子供たち一人一人のつまずきを早期に発見・支援するとともに、学力を大きく伸ばした（学力を伸ばした児童生徒の割合が大きい、学力の伸び率が高い）学年や学級を把握し、担当者からの聞き取りや授業参観を行うなど、効果的な取組や工夫を、学校全体で共有し実践する。

【主体的・対話的で深い学びと学級経営の充実】

本調査のデータ活用事業での分析結果を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業の工夫・改善と、学級経営の充実を進める。

【小中連携の推進】

中学校区内の小・中学校で合同研修会や授業研究会を実施し、指導法の違い等について共通理解を図るなど、学習面での小中連携を一層進める。

教科別授業改善の視点

国語科

【多面的な思考を求める活動の設定】

- 複数の本や新聞などの資料を活用して自分の考えを書いたり、他者や本との対話から自分の考えを整理して表現したりする場面を意図的に設定しましょう！

【言葉の特徴や使い方に関する事項の定着】

- 主語と述語の関係や、修飾と被修飾との関係などの〔知識及び技能〕の定着を図りましょう。その際には、他教科や日常生活、社会生活等で生かせるような具体的な場面をイメージさせ、思考・判断、表現することを通じて定着させましょう！

【指導のねらいの重点化を図る言語活動】

- 理由や根拠を基にして、自分の考えを文章にまとめる活動や話し合う活動を計画的に行い、苦手意識をなくすようにしましょう！
- ねらいに即して子供の発言を切り返したり、問い直したりして「言葉への自覚」を高めさせましょう！

【振り返りの実施】

- 子供自身が考えの変容を確認したり、新たな問いや疑問を持ったりすることができるよう、学習した過程を振り返りましょう！

算数・数学科

【日常生活や社会との関連を図った課題設定】

- 学習課題を日常生活や社会と関わりを持たせることで、イメージを持って課題に取り組めるようにしましょう！

【見通しと振り返りの実施】

- 既習の確認、具体物の操作等、全ての子供が自分なりの考えを持てるように支援しましょう！
- 自分の考えた結果や過程を振り返る時間をとりましょう！

【言語活動の充実】

- 問題場面を、図、式、グラフなどの数学的な表現で表せるようにしましょう！
また、それらと言葉を関連づけて、他者に説明できるようにしましょう！
- 子供の発言への切り返しや、子供の発言をつなぐことを意識しましょう！

【統合的・発展的に考える力の向上】

- 子供たちがそれぞれの考えの共通点や相違点を見付けたり、問題の条件を変えて考えてみたりするなど、思考を深める場面をつくりましょう！

英語科

【ゴールを明確にした授業づくり】

- 生徒に身に着けさせたい力を明確にした「単元のゴール」や授業1時間のゴール（めあて）を生徒に提示することで、学習の見通し（目的）を持たせましょう！

【目的・場面・状況設定を大事にした言語活動】

- 具体的な場面・状況を設定し、言語活動に必然性をもたせ、生徒自身の考えや思いを表現したり伝え合ったりする活動を行いましょう！

【相手意識を持たせた表現活動】

- 英語を話したり、書いたりする活動では、誰に、何のために伝えるのかを明確にして、相手意識を持った表現活動を行いましょう！

【既習事項をフル活用させる活動】

- これまで学習した表現をフルに活用できる場面を設定し、聞く、読む、話す、書く言語活動を通して既習表現を定着させましょう！

【フィードバックや振り返りの充実】

- 生徒が行った活動の意味づけのためのフィードバックや、成長の実感、疑問の顕在化のための振り返りを充実させましょう！

これらの「授業改善の視点」は一例です。こうした視点を参考に、各学校の実情に合わせた工夫・改善を行い、児童生徒一人一人に応じた指導の充実を図っていただきますようお願いいたします。

2 平成29年度埼玉県学力・学習状況調査 データ活用事業における分析結果 (参考)

1 はじめに

県では、本調査の実施と併せて、約30万人分の調査結果を活用し、児童生徒の学力向上に向けた指導改善を進めるため、「データ活用事業」において分析を行っています。

平成29年度は、過去3年間に得られた調査データを、統計学や教科教育の専門的な研究機関である学校法人慶應義塾 慶應義塾大学SFC研究所へ委託し、指導と学力の関係について詳細な分析を行いました。

2 これまでのデータ分析結果

過去2年間に得られた調査データを基に、平成28年度に行った分析では、「主体的・対話的で深い学びは、児童生徒の『非認知能力』*₁の向上や『学習方略』*₂の改善を通じて、学力を向上させる可能性がある」という結果が得られました*₃。(図1)

*1 「非認知能力」…例えば「自分の感情をコントロールして行動できる」等の力

*2 「学習方略」…例えば「計画的に学習する」等の学習方法や態度

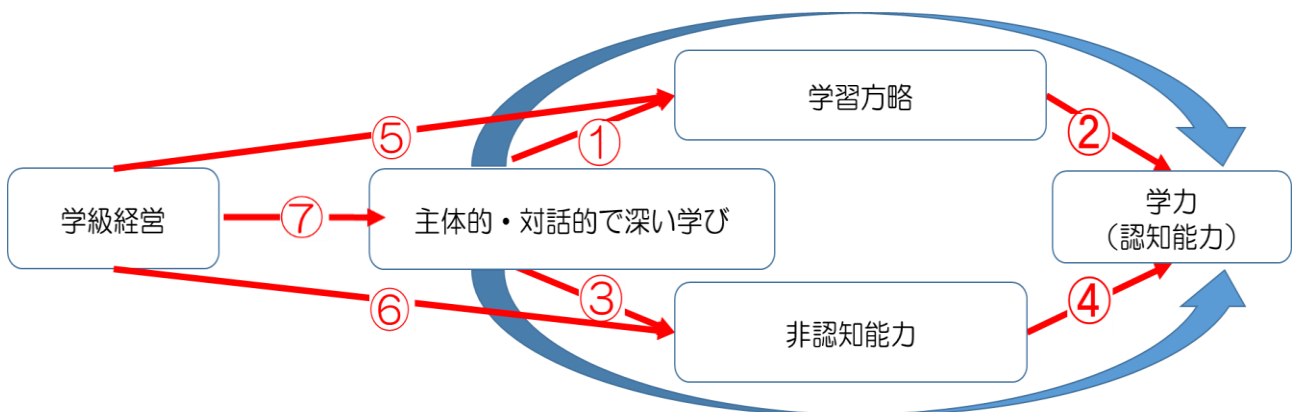
*3 各項目についての詳細な説明は、「【別添1】分析に使用されている項目について」参照

3 平成29年度のデータ分析結果

これまでの分析結果を踏まえて、平成29年度に行った分析の結果、主に以下の4点について新たに明らかになってきました。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、結果として児童生徒の学力向上につながる。(図1)

(図1)データ分析結果の関係図



・「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要。(⑤・⑥・⑦)

→「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。

「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

・主体的・対話的で深い学びは、子供たちの学習方略の改善や非認知能力の向上を通じて、学力を向上させる(①～④*₄)。

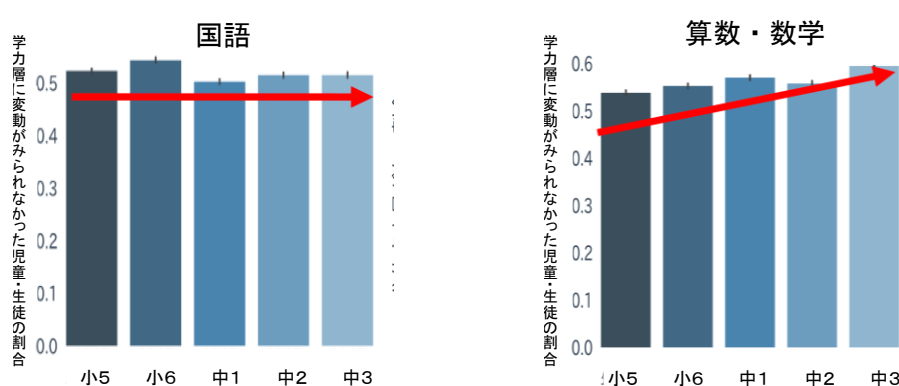
*4 昨年度の分析結果(①～④)・・・平成29年度の調査結果を加えて分析しても同様のことが言える。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実施は、社会経済的に課題のある可能性のある中学校2年生、中学校3年生の生徒の学力向上に、より効果的であること。

- ・主体的・対話的で深い学び（AL）が子供たちの学力に与える影響について、通塾のありなしに分けて分析
- ・中学校1年生までの子供の学力に対するALの影響は、通塾のありなしで大きな差は出ていないが、中学校2・3年生の子供の学力に対するALの影響は、通塾している子より、通塾していない子への影響が大きい

(3) 低学力層にいる児童生徒は、特に算数・数学において、学年が上がるにつれて低学力層から抜け出にくくなること。（図2）

（図2）学力層に変動がみられなかった児童・生徒の割合



- ・下位25%（分位点）に属している子供たちが、次年度に下位25%を脱している（分位点上昇がある）のか、脱していない（分位点上昇がない）のかを分析
- ・国語に比べ、算数・数学は、学年が上がるにつれて下位25%を脱しにくくなる。
→算数・数学は学年が上がるにつれ、前年度の学力から受ける影響が大きいいため、低学年（早い段階）での躓きを残さないことが、一層重要

(4) 教員が、これからの時代に求められる教育観・学習観を十分に理解した上で、指導助言を受けながら授業改善に取り組んだ場合、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推進されること。

これらを踏まえて、各学校では児童生徒同士が良好な関係を築き、学校生活が楽しいと感ぜられるような学級づくりを進めるとともに、教員自身がこれからの時代に求められる教育観・学習観を十分理解した上で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をより一層推進することが必要だといえます。

【別添1】分析に使用されている項目について

項 目	説 明
アクティブ・ラーニング の実施	学級におけるアクティブ・ラーニングの実施状況を数値化した値 ※ 児童生徒質問紙の回答から算出した値のため、教師が実施したかどうかではなく、児童生徒が実施についてどう受け止めていたかという値
<p>【児童生徒質問項目（例）】 ※学年により、質問項目が異なります。</p> <p>あなたの〇年生の時の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を解決するときに、それまでに習ったことを思い出して解決できたこと ・ 自分の考えを理由をつけて発表したり、書いたりできたこと ・ ノートやワークシート、プリントに書いた授業のまとめを先生に見てもらうこと ・ グループで活動するときに、一人の考えだけでなくみんなで考えを出し合って課題を解決すること ・ 授業で課題を解決するときに、みんなでいろいろな考えを発表すること ・ 授業の始めに、先生から、どうやったら課題を解決できるか考えるように言われること ・ 授業の始めには気が付かなかった疑問が、授業の終わりに、頭に浮かんできたこと 	

項目	説明
学習方略	子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、次の①～⑥に分類される。
<p>① 柔軟的方略 … 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動 (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習する など</p> <p>② プランニング方略 … 計画的に学習に取り組む活動 (例) 勉強を始める前に計画を立てる など</p> <p>③ 作業方略 … ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動 (例) 大切なところを繰り返し書く など</p> <p>④ 人的リソース方略 … 友人を利用して学習を進める活動 (例) 友達に勉強のやり方や分からないところを聞く など</p> <p>※ <u>分析結果では「人的リソース方略」は、児童生徒の学力と負の相関（人的リソース方略を利用する児童生徒ほど、学力が低くなる傾向）が報告されています。</u></p> <p>⑤ 認知的方略 … より自分の理解度を深めるような学習活動 (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など</p> <p>⑥ 努力調整方略 … 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動 (例) 分からないところも諦めずに継続して学習するなど</p>	
【児童生徒質問紙の項目】	<p>-----</p> <p>柔軟的方略 勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる 勉強しているときに、やった内容をおぼえているかどうかをたしかめる 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える -----</p> <p>プランニング方略 勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる 勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう -----</p> <p>作業方略 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす 勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる 勉強で大切なところは、くり返して書いたりしておぼえる -----</p> <p>人的リソース方略 勉強でわからないところがあったら、友達にその答えをきく 勉強でわからないところがあったら、友達に勉強のやり方をきく 勉強のできる友達と、同じやり方で勉強する 勉強するときは、最後に友達と答えあわせをするようにする -----</p> <p>認知的方略 勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする 勉強していてわからないことがあったら、先生にきく -----</p> <p>努力調整方略 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する 学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう いまやっていることが気に入らなかったとして、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる 授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単なところだけ勉強する -----</p> <p>問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつづけられるように努力する</p>

<p style="text-align: center;">非認知能力</p>	<p style="text-align: center;">テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の4種類について質問を行っている。</p>
<p>① 自制心 … 自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 (例) イライラしていても人に八つ当たりしない など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 平成29年度の小学校5年生、中学校2年生に質問（平成28年度は、小学校4年生、中学校1年生に質問）</p> <p>自制心</p> <p>授業で必要なものを忘れた 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした 何か乱暴なことを言った 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった 家や学校で頭にきて人やものにあたった 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた イライラしているときに、先生や家の人（兄弟姉妹を除きます）に口答えをした</p>	
<p>② 自己効力感 … 自分はそれが実行できるという期待や自信 (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 平成29年度の小学校6年生、中学校3年生に質問（平成28年度は、小学校5年生、中学校2年生に質問）</p> <p>自己効力感</p> <p>授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う 学校でよい成績をとることができるだろうと思う 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う</p>	
<p>③ 勤勉性 … やるべきことをきちんとやることができる力 (例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 平成29年度の中学校1年生に質問（平成28年度は、小学校6年生と中学校3年生に質問）</p> <p>勤勉性</p> <p>うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります ものごとは楽しみながらがんばってやります 自分がやるべきことにはきちんと関わります 授業中は自分がやっていることに集中します 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします ルールや順番は守ります だれかと約束をしたら、それを守ります 自分の部屋や机の周りにはちらかっています 何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです 宿題を終わらせてから、遊びます 気が散ってしまうことはあまりありません やらないといけないことはきちんとやります</p>	
<p>④ やりぬく力 … 自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力 (例) 失敗を乗り越えられる など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 平成29年度小学校4年生に質問（平成29年度新規）</p> <p>やりぬく力</p> <p>大きな課題をやりとげるために、しっばいをのりこえてきました 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります しっばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます 何事にもよくがんばるほうです いったん目ひょうを決めてから、その後べつ目ひょうにかえることがよくあります 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません 始めたことは何でもさいごまで終わらせます 何年もかかるような目ひょうをやりとげてきました 数か月ごとに、新しいことにきょう味を持ちます まじめにコツコツとやるタイプです</p>	